



# 探究スキルの育成に向けて

—オリジナルプログラムでのデータベース活用—



勝山 万里子

## <抄録>

生徒の探究スキルを育むため、二高オリジナル「STARTプログラム」を実施。1年生全員が年間14時間で探究の基礎を学ぶ。信頼できる情報源を知り活用できる情報収集力の育成の中で朝日新聞の新聞記事データベース「朝日けんさくくん」を活用。短時間で多くの情報収集ができるデータベースの活用は探究学習に欠かせない。

## <キーワード>

探求学習, STARTプログラム, 思考力・判断力・表現力, 総合的な探究の時間, 道徳, 信頼できる情報

## 1 はじめに

本校(石井純一校長 生徒数950人)は、明治33年に創立された伝統ある全日制普通科の県立高校である。1学年8クラスからなり、生徒は全員が女子である。第3期14年になるスーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業、海外研修、部活動等、生徒は勉学や部活動に熱心に取り組み、伸び伸びと学校生活を楽しんでいる。昨年度は、国公立大学に108名が合格した。

図書館は普通教室の約3倍、座席数44席、蔵書約4万冊、新聞5紙、雑誌、インターネット、データベースとしてジャパンナレッジ、「朝日けんさくくん」が利用可能である。図書部は5名で構成されており、専任司書が配置されている。

一昨年度学校図書館法が改正され、学校図書館の重要性が高まってきている。そのような中、専任の学校司書として「読書センター」「学習センター」「情報センター」の機能を生かした図書館活動を展開しているところであるが、本稿では特に「情報センター」機能を活用した活動を紹介したい。

## 2 二高オリジナル「STARTプログラム」

本校では図書部が主体となって、1年生の総合的な探求の時間(茨城では道徳)の一環として、「人間としての在り方・生き方を考えること」をテーマに、図書館の活用からプレゼ

ンテーションまでを経験するオリジナルの「STARTプログラム」を行っている。「START」とは「Students Talk About Reading Themes」の頭文字で、「生徒が人間としての在り方・生き方に関して自分のテーマに基づいて調べ、第三者に伝える力を育てたい」との願いから生まれた。

このプログラムの誕生の背景には、東日本大震災があった。校舎が被災した本校は、図書館が教室になり、同じ空間に暮らす生徒達の悩みや課題に気づくようになった。彼女たちは「生き方」や「進路」に悩む一方、その解決のために「本」や「図書館」を使うスキルが身につけていなかった。そこで、人間としての在り方・生き方を考えつつ、図書館を活用する力が育成できるようなプログラムを検討することになった。学習指導要領でも重視している思考力・判断力・表現力の育成、教科との連携や道徳心を培うこと等を視野に入れ、SSHの先生方などさまざまな方々に助言頂きながら誕生したのが、このプログラムである。プログラムは①興味のある人物を選ぶ②学校図書館の資料を活用して人物を調べる③スライド作成④発表(一人5分)という4つのプロセスから構成される。特に①②では図書館の仕組、NDC、信頼できる情報とは何か、その収集の仕方、公共図書館の使い方、参考文献の記入の仕方等の説明をすることで、学校図書館が自分たちにとって必要な場所だと認識させる絶好の機会になっている。

## 3 朝日けんさくくん導入の経緯

この取り組みを始めて4年経った頃、「STARTプログラム」は、校内で「学びの基礎を作るプログラム」と位置づけられるようになってきた。「水戸二高SSHサイクル」の説明図には、このプログラムが基礎として位置づけられた。

SSH担当の先生は「1年生でSTARTプログラムを行うため、2年生の学校設定科目「環境科学」では図書館を使った探究学習へスムーズにステップアップできる」と話されている。また、探究的な学習は、保健体育、音楽でも取り入れられ、学校図書館が活用される機会が増えてきた。

KATSUYAMA, Mariko : 茨城県立水戸第二高等学校(茨城県水戸市大町2-2-14)

このように、探究学習の機会が増えてきた中で、信頼できる情報源からの効率的な情報収集が必要になってきた。先進校の状況を調べてみると、「朝日けんさくくん」を導入している学校が多く見られた。情報検索演習や効率的な情報収集を考慮したとき、50台同時アクセスが可能な機能も魅力であった。また、探究学習だけでなく、進路での情報収集にも活用できることも判り、「朝日けんさくくん」の導入に踏み切った。

#### 4 朝日けんさくくんの活用

情報収集に関しては、説明だけでは利用につながらないため、STARTプログラムの中に検索演習を組み込んでいる。1学年の生徒全員がプログラムの時間中、国立国会図書館サーチを使って県立図書館から図書等の資料を借りる方法や、ジャパンレッジ、「朝日けんさくくん」の使い方や活用の仕方の演習を行う。

「朝日けんさくくん」に関しては、IDとパスワードを示し、校内のパソコンであればどこでもアクセスができることを説明している。実際に、データベースにアクセスし、自分の探究テーマや興味のある事柄の検索を行う。この時間を通して、短時間に想定以上の情報を手に入れられることを体験すると、「新聞記事」に対する心理的なハードルがぐっと下がるようである。「朝日けんさくくん」はキーワード、発行日、関連キーワード機能（入力語に関連したキーワードを抽出する支援機能）などで調べていけるため、大変効率よく多くの情報とアクセスできる。そのため、生徒はSTARTプログラムだけでなく、2年生の環境科学、保健体育、対外的な発表、受験に際しての情報収集にも活用している。今年度、新機能の「パワーシート」が受験対策コンテンツとして追加されたので、早速受験生である3年生に伝えた次第だが、もっと効果的に全員に伝える機会を模索しているところでもある。大学入試の傾向が変わり、記述式や面接の比重が増えている今だからこそ、信頼できる情報源から短時間で効率よく入手できるデータベースの活用が欠かせなくなるだろう。

#### 5 探究を支えるもの

3年前から、探究活動の成果を、成果発表会として本校体育館で行っている。1年生は全員が個々に調べたSTARTプログラムでの人物発表でのポスターセッションを行う。SSHクラスを除く2年生全員は、個々に調べた「環境科学」、SSHクラスはグループでの「課題研究」のポスターセッションを

行うのである。

640名の生徒が、信頼できる情報源を駆使し、自分の考えを堂々と発表する姿は圧巻である。



成果発表会



検索演習



全員が口頭発表を体験